

茅風



— Breeze from the field of thatch-grass —

2007年1月5日
森林塾青水
事務局便り
茅風通信 20号



11月4日 小春日和

撮影関谷重彦

06年11月~12月の活動報告(事務局).....	1
特集;「カヤ葺き保全視察とカヤ刈り体験」ツアー	
「萱刈り体験ツアー」の記録写真/折原磨寸男.....	2
葺き保全視察と刈り体験に参加して/関谷重彦.....	2
青空に映えるカヤ/永井里沙.....	3
お茶講体験記/内野みつ子.....	3
第5回講座「コモンズ村ふじわら」レポート	
はじめての茅刈り/中村佳子.....	4
私のカヤ刈り体験記/川越陽子.....	4
夫婦でカヤ刈り初体験/竹内美穂子・幸典.....	5
萱刈り体験記/浅野勉.....	5
平成18年の活動の振り返り(事務局).....	6
第6回講座「コモンズ村・ふじわら」のご案内.....	7
編集後記~ 06年の収穫と今後の課題など.....	8

06年11月~12月の活動報告

事務局

11月1日(水): 幹事会と「藤原ガイドマップ」作成検討会

11月3日(金)~4日(土): 森づくりフォーラムとの共催事業「カヤ葺き保全視察とカヤ刈り体験 日本の伝統・茅葺屋根と茅場を見直す」をみなかみ町「地域間交流事業」として実施。地元・藤原から6名、首都圏から13名が参加、上の原のススキが中之条町の国指定重要文化財の茅葺屋根材として活用されている現場を視察するなど、2日間にわたり交流の実をあげた。ご案内の労をおとりにいただいた町田社長と親男さん、カヤ刈りのご指導をいただきました久さんと三郎さん、ありがとうございました。

11月11日(土)~12日(日): 第5回講座「コモンズ村ふじわらーカヤ刈りと山の口終い」実施。参加25名。12日は初雪の中、川場村他から12名の皆さんが見学、合流。郷土料理のポタやキノコ汁の仕出しをしていただいた民宿「とんち」の皆さん、ありがとうございました。

12月3日~15日: この間のカヤ刈り実績は約3,000束(=600ポッチ)。過去4年で最高を記録。久さん、三郎さん、万枝さんご苦労さまでした。来年は目標5,000束ですね!!

12月6日(水): 幹事会と「藤原ガイドマップ」検討会ならびに顧問報告会。終了後、滑志田・笹岡両顧問にも参加いただき、今年一年の振り返り、忘年会。

12月7日(木): 川端・清水がみなかみ町役場と藤原の「遊山館」を訪問。鈴木町長・腰越助役以下、町役場関係者ならびに地元の皆さんに、今年一年の活動実績の報告とお力添えに対するお礼言上。

(6頁の「今年1年の活動の振り返り」ご参照)



11月12日 初雪

撮影三好正子



撮影三好正子

「萱刈り体験ツアー」の記録写真 折原磨寸男



白久保お茶講

国指定重要無形民俗文化財の白久保お茶講体験。
4種類のお茶を飲み当てる民族行事。楽しく、気軽に本格的な伝統文化に触れることができた



富沢家

群馬県中之条に残る古民家。茅葺屋根のデザインの美しさが、この地域の文化レベルの高さを物語る



萱刈り

森林塾青水が保全管理を行っている茅場。
森林塾青水は、この茅場を入会地として蘇らせた



萱刈り集合写真

ツアー体験者の集合写真。わずかな作業時間だったが、ツアー参加者には、一種の連帯感が生まれた。この連帯感が、入会地を守る講の基盤となる



森林塾青水の活動フィールドの散策

萱葺き保全視察と刈り体験に参加して

森林インストラクター東京会「森林塾」関谷重彦

群馬県水上町の宝台樹スキー場と水上高原ゴルフ場の間にある「上の原」には、人の背丈より高く、まっすぐに太く育ったススキの緩斜面が広がっていた。

今、皆伐跡地や休耕田などに多く見られるススキは、人手が入らない為に古い株が邪魔をして、根曲がりや太さもまちまちなものが多い。藤原地区のカヤト（ススキ原野）は、平成16年4月に約40年ぶりに復活した「野焼き」で、かつて里山に見られた見事なススキが蘇っていた。

参加動機は...

「江戸東京たてもの園」（東京都小金井市）で、毎週金曜日に江戸時代に建てられた茅葺き民家で燻煙（囲炉裏・竈に火をおこし、その煙の効果で防虫対策をする）むかし暮らしの話や建物の解説などをするボランティアをやっているが、平成18年2～3月にかけて2棟が「全面葺き替え」と「さし茅」が行なわれた。その時、職人さんから山ススキは水上町藤原地区から取り寄せた事を知り、機会があれば行ってみたいと思っていたところ、今回の「森づ

くりフォーラム」・「森林塾 青水」の共同企画を知り、飛びつきました。

参加した感想:ひとことと言うと、「大満足」

森林塾 青水 の清水英毅塾長・塾生の皆さん、お忙しいのに2日間同行・ご案内戴いた(株)町田工業(中之条町) 町田 茂社長、さらに地元水上町藤原地区・藤原案内人クラブの林 親男さんはじめ長老の皆さまと交流できたことが、とても良かった。

皆さまが「野焼き」から「茅葺き」にいたる自然循環の仕組みと地域の生活を支えた入会地(いりあいち)を復活させ、さらに発展させて里山をとりまく上・下流の交流・参画による「地域丸ごと博物館」づくりと「里山の活性化」にチャレンジされようとしている。その熱き思いに感動しました。

また、藤原地区の長老 林 久さんと林 三郎さんに茅の刈り方、1束の縛り方や5束をまとめてポッチに立てる作業を丁寧にご指導戴きました。感謝致します。

ふだん活動している東京・奥多摩の山しごとのプロもそうですが、常に次の事を考えて、無理や無駄なことをしないお二人の技は、雄大なカヤトを舞台に研ぎ澄まされた演技をする役者さんのようで、恐れ入りました。

初日に、町田社長のご案内で中之条町の茅葺き屋根の国の重要文化財を見学した。中には、貴重な茅葺き民家が無人で傷みが激しく、茅と支える竹を縛る藁縄が全部ちぎれているものがあつた。竈や囲炉裏の煙がない、ひと気のない状態だと「藁が老けてダメになる」と、町田社長が寂しそうに言われた。情景再現の為に山深い現地で保存する良さと管理する難しさなど、課題を感じた。まことに「もったいない」ことである。

さらに、国指定 重要無形民族文化財「上州白久保のお茶講」も体験した。14世紀の中頃から武士の間で盛んに行なわれていたと伝えられている、お茶の味や香を飲み当てる『闘茶』が全国でただ一ヶ所だけ、その形態が中之条町に残っている。

お茶が4種類あり、7回飲み(順不同で1種類のお茶が1回、3種類のお茶が2回出る)正解を言い当てる。先人達が残してくれた優雅で貴重な習俗がよくぞこの地に残ってくれた、と「奇跡」を感じた。町田社長は30年やって、今までに全問正解が2回あつたそうだが、やってみると実に面白い。とにかく、ひと時(13人で約1時間)を童心に返って楽しんだ。結果は散々だった。参加した私の同僚4人中私もだが、3人が全部不正解...!

リベンジせねば...

これから...

中之条町や水上町藤原地区での見聞を、金曜日にボランティアをしている江戸東京たてもの園の建物解説の際、茅葺き屋根にまつわる話として、来園されたお客さまに紹介している。たいへ

ん好評です。

たてもの園には一般来園客のほかに小・中・高の生徒、さらに建築・デザイン専攻の専門学校・大学などの学生さんが課外授業で見学に来るが、「日本の伝統」(文化財の維持・管理や自然との共生など)について話題を提供して、考えてもらう材料としても活用してみたい。

以下、誠に私的の用件ですが冬季、上手くはないがスキーで毎週のように白馬方面と片品村のグレンデに行っている。今シーズンは何日も連泊が出来そうもない事情があり、水上・宝台樹スキー場を多く利用することにしました。また、都合がつけば、『上の原の野焼き』を是非見たいと思っています。

青空に映えるカヤ 森づくりフォーラム永井里沙

11月3、4日、「カヤ葺き保全観察とカヤ刈り体験」に参加した。群馬県の中の条駅まで純行電車での長距離移動は私をワクワクさせた。知らない町の景色を眺めるのは好きだ。とかいいつつ、朝が早かったために半分くらいはうとうとしてしまったのだけれど。

「カヤ葺き屋根の見学」や「お茶講体験」などがあつたが、なにより良かったのはカヤ刈り体験である。天気に恵まれ、カヤが青空に映えてとても美しかった。カヤを刈るのはなかなか難しく、私は1ポッチつくるのもやっとだったけれど、無条件に楽しかった。

ただ1つ残念だったのは、カヤ葺き屋根の知識がない私には、その仕組みや葺き方の過程が見えてこなかった。今度は、「野焼き体験」と「屋根の葺き替え作業見学(可能であれば体験したい)」に参加したい。

森林塾青水のみなさん、町田工業の町田社長(笑顔がとってもステキでした!)、みなかみ町藤原地区のみなさん、お世話になりました。

お茶講体験記

内野みつ子

ぐい飲みのさかずきみたいな器に大きいきゅうすで、粉茶で作られた茶が配られる。甘くて苦いのもあり、その甘さが何とも不思議な甘さで、子供のころ砂糖の変わりに使ったサッカリンの味で、甘さが口の中に何時までも残っていた。

町田社長は「余り飲まないで味だけみて」としきりに言う、4種類の見本茶を飲みゲームの始まり、残つたお茶は大きい茶のみ茶碗にあげ、ティッシュで器をきれいに拭き、飲んだお茶が何番何番だったか答えなければならない、それを7回繰り返す。

最初は迷って答え、最後は残りの番号を答える。途中、何番の茶だったか答えるうちに、社長がニヤニヤした。同じお茶を飲んでるのに客茶だったり、本茶1、2、3とバラバラの返答なので正解が少ないかな?と思つたらしい。

結局、7つ飲んで正解は3つが最高で2名、2つが数人、1つも数人、7つとも間違いが6~7名と、用意された飴やチョコが不足気味になり、普段は全問正解が1~2名いるというのに、私たち味の味覚が、やっぱり若い人とかなり違うのか？色々味を知りすぎた経験が災いしたのか分からないけれど、こんなグループは珍しかったようです。

また機会があったら中之条の町を訪れたいと思います。

第5回講座「コモンズ村ふじわら」レポート

はじめての茅刈り

中村佳子

7月の森林文化協会主催の「玉原の森を歩く」で偶然知り合った渡辺さんに青水を紹介していただき、今回初めて活動に参加させてもらう機会を得た。

初日は雨の中、茅を刈る作業を体験した。通常、雨は茅刈りには不適ということだったが、せっかく参加して人への特別の配慮が働いたのだろうか。ともあれ、熟練した方々に手ほどきを受け、見よう見まねで刈ってはみたものの、おそらくはすぐには使えない、二度手間三度手間の作業を要する「不良茅」を産出してしまった。でもやり出すと、「あそこまで」、「次はあそこまで」と夢中になってきりが無い。「雑草が混じっていても、量が必要」という言葉に、ちょっぴり救われた思いがした。

二日目はだんだん激しくなる雪(!)の中、茅場に入り込んできている木を切る作業をした。あんなノコで立派な白樺を自分の手で切ることができるなんて、信じられない思いがした。いっばしの「木こり」になれた気がした。

夜のミーティングで、会の活動の紹介等の説明を受け、この秋20年ぶりに乗った只見線の窓から眺めた景色が一変していたことを思い出した。たしか昔は車窓から茅葺き屋根の家々とのどかな田園風景が見えていたはずなのに...。茅葺き屋根は意識して保存しようとしなければ残らないという当たり前前のことに気づかされた。そしてちょうど私が子供

の頃に普通に目にしていた茅葺き屋根の家は急速に姿を消している、そういう時期なのだとなり、愕然とした。



初雪の中で山の口終い 撮影木村伸介

茅葺き屋根は結局文化財に指定されなければ消えていく運命なのか。もっとも文化財に指定されていても予算が何とやらで保存していくのが大変らしいが。人の善意に頼るだけでなく、「美しい国」などと盛んに言う人が、もっと真剣に日本の町並みや原風景について思いはせ、積極的に残していく施策を講じてもいいのではないかと？

そんなことを考えながら、2年前に取り壊されてしまった私の好きだった新潟の祖母の家、立派な町家が、ふと心に浮かんだ。

私のカヤ刈り体験記

川越陽子

野焼き体験の機会を雪で逃し、今回はカヤ刈り体験。青水塾の作業への初参加となりました。参加者の多くが経験者、さらにベテラン組がズラリと並んで、ここの作業のレベルの高さがうかがえます。指導員の林久さんや林三郎さんがさりげなく見せてくださる「刈り方」は、見るとやるでは大違いを実感するばかりですが、小雨の中、傾斜地に足を滑らせながらも楽しく過ごしました。

その後のカヤ干しの方が、男性陣は四苦八苦していたようです。四~五束のカヤをインディアンの家のように立てて結ぶのですが、立てる角度でしっかり縛れたり、そうでなかったり。脚をもっと広げて、のアドバイスは重要なポイントのようでした。濡れたカヤはあまり好ましくない、ということで短時間の体験でしたが初心者には有難かったです。一日中していたら、三日後まで腰痛が残りそうです。

二日目は朝から雪！紅葉している木々の上にもみもみ積もってゆく様は見惚れるばかりの風情です。当然カヤ刈りは中止で、「郷土館」の見学や自然観察会に変更。最後の楽しみが地元の民宿「とんち」の奥さんたちの手作りの昼食会でした。ポタという五平餅を思わせるようなものと、熱々のナメコ汁でした。二つのグループへの食事ですから、大層な手間だったことがうかがわれます。タップリ用



学習会兼交流会 撮影木村伸介

意してくださったのでお土産にまでいただいてしまいました。ご馳走様でございました。(作業より感動してしまいました。)またお会いしたいですね。次回こそ野焼き体験です。



ポタとキノコ汁で暖を取る 撮影木村伸介

夫婦でカヤ刈り初体験

竹内美穂子・幸典

心配していた天気予報通りになり、土曜日はシトシトと冷たい雨が降り、日曜日にはなんと藤原に初雪が...

内野夫妻に誘われて9月の第3回講座に続いて2回目の参加になりました、通い妻竹内です。

前回のとき、周りの皆さんの楽しい会話や自然を大切に守るという活動に感激して、ぜひまた参加したいと願っていましたので、今回は楽しみで楽しみで遠い博多から飛んできました。きっと雪も歓迎してくれたのかも知れませんが...

9月の時には茅場にはススキがゆれ、花々が咲き、虫が鳴いていたのに、こんなに変わるものなのか...と思いました。これが屋根になるカヤなんだと思うと、素人が茅刈りなんてできるのだろうか...と少々心配でした。カマを使うのも生まれて初めてで、指導していただきやってみると、「オーッキモチイ」。束ねるのも面白くて、これが『1ボッチ』と子供のような気分で参加させていただきました。束ねる量がいいかげんで、なんだこれ...少ないじゃないか...と文句が出るかもしれません。ごめんなさい。

紅葉もきれいで、日曜日に紅葉の写真を撮ろうと思っていたのに、紅葉の上に雪が積り...こんな博多じゃ絶対できないことです。帰って博多の友達に自慢しなくては。

雪って積り始めると早いんですね。カラマツ林の中を散策するとき、どんどん降って来て今歩いて来たところが見えなくなるんですから...。こわいですね。

内野さんのきのこ汁もおいしかったし、地元の人たちが作ってくれた「ぼた」も、とてもおいしかった。木の話、山の話、水の話、どれもみな面白く少し物

知りになったような気持です。

茅刈りは土曜日のわずかな時間しかできず、たいした手伝いにならなかったですが、本当に楽しい体験をありがとうございました。又機会があれば参加させてください。

竹内美穂子

初めて塾の行事に参加させていただきました。

ひさしぶりに自然の中を歩き、ススキを刈るなどという経験をさせてもらい、雪にまで見舞われた、いつにない週末であったことよりも、普段は会わない種類の人たちにお会いしたのが印象的でした。

木の専門家、山の専門家、文化財を修復する専門家、またそのような人々を尊重しまとめて自らを組織し、される人々がいることがすごいなあと感じました。自分の道を毅然と歩いてこられたんですね、きっと。

あすなるの話はややショックで、しかし面白い話でした。書き物を出されたら、きっと大売れですよ!! みなさんお世話になりました。ありがとうございました。

竹内幸典



雪中茅刈り 撮影木村伸介

萱刈り体験記

浅野勉

森林塾青水の清水塾長には、もう10年以上も前から「日本の澄んだおいしい空気・豊富なおいしい飲料水の源は森林の存在にあり、首都圏で生活する我々は利根川の源を思うべし」という「飲水思源」の想いを聞かされてきた。

過去においても(財)サンワみどり基金主催のカラマツの間伐に参加したこともあり、森林への思いは断ちがたいものがあった。

今般、清水塾長の誘いに乗って、みなかみ町藤原の萱場に足を運んだ。森林塾や飲水思源という塾長の熱き・深き想いと「萱場」とどういう関連があるのかも理解せず、昔からの仲間と気楽に3人で参加させてもらった訳だ。地元を足踏み入れ、萱葺屋根の家屋を見学したり、葺き替え専門業者である町田工業の方の話の聞いたり、地元の人々の声を聞いたり、貴重な萱場が雑木により侵食され、行き場を失

い自然破壊へとつながっていく現場を見たりすることにより、はじめて、塾長の熱き・深き想いを理解することができた。

それと同時に、1日だけではあったが体験させてもらった萱刈の作業を、苦痛とは感ぜず夢中になりながら行なうことができたことが、自分にとって新鮮な非常に意義深いものと感ぜられた。

「日本の文化を守ること。それは、日本人の心を後世に伝承すること。」であろうと思う。あのみなかみ町藤原のフィールドに集ってきていた人々に

は、「そのための理解と愛情と辛抱」が備わっていたような気持がする。

自分自身は、これからもあまり大上段に構えずに、地元の古参の人や若き将来の担い手の人達と気楽に・優雅に・フレンドリーに親交を深めながら、「自然」と触れあうことができたなら----と考えつつ、「来春の野焼きに参加してみようかな」という気持ちに駆られているところである。

清水塾長、会員の皆様、参加者の皆様、地元の皆様、ありがとうございました。

平成 18 年の活動の振り返り

(事務局)

1月	・みなかみ町役場訪問、平成17年の活動報告とお礼
2月	・平成17年度第6回講座「コモンズ村ふじわら」 かんじき作りと雪原散策
3月	・シンポジウム「利根川流域圏環境ネットワーク」参加 ・森づくりフォーラム訪問、共同事業の提案(以降、打合せ数次)
4月	・年次総会兼事業説明会(青山・国連大学会議室) ・文部科学省訪問、「文化財の森」事業のヒアリング(以降、数次) ・野焼きの事前打合せと現地視察(4月22日、於「遊山館」) ・4月29日、30日予定の野焼き、降雪のため延期(5月6日、7日)
5月	・平成18年度講座「コモンズ村ふじわら」オープニングプログラム 野焼き(復活3年目)と「山の口明け」行事 ・平成18年度第1回講座「コモンズ村ふじわら」 ミズナラ林の木馬道復活と滝ルート新設 ・麗澤中学「樹木観察会」
6月	・第2回講座「コモンズ村ふじわら」 ミズナラ林の道普請とススキ草原の雑木伐採 ・藤原区特別区費ならびに旧教職員住宅(当塾現地事務所)家賃の納入
7月	・麗澤中学「水源の森フィールドスタディ」の受入れ ・川越中学校「里山探険クラブ」の受入れ
8月	・諏訪神社例大祭ならびに第12回「藤原区民祭り」の開催協力 ・日本造園植物研究会「利根川源流域フィールドスタディ」開催(当塾ならびに藤原案内人クラブで4ヶ所を案内)
9月	・「藤原ガイドマップ」作り(地域連携システム整備事業)第1回打合せ ・第3回講座「コモンズ村ふじわら」 古道・青木沢峠の復活() (地元の古老・関係者多数の協力の他、藤原中学校「昔の道を探すクラブ」の生徒・教官が参加) ・「藤原ガイドマップ」作り 第2回打合せ
10月	・第4回講座「コモンズ村ふじわら」 古道・青木沢峠の復活() ・「藤原ガイドマップ」作り 第3回および第4回打合せ
11月	・渋谷区民フェスティバルに参加・出展(みなかみ町に協働) ・地域間交流事業「茅葺き保全視察とカヤ刈り体験 日本の伝統 茅葺き屋根とカヤ場を見直す」実施(森づくりフォーラムと共催、地元住民と市民団体が交流) ・第5回講座「コモンズ村ふじわら」 カヤ刈り(復活4年目)と「山の口終い」行事 ・「藤原ガイドマップ」作り 第5回打合せ
12月	・みなかみ町役場ならびに藤原区(遊山館)訪問、1年の活動報告とお礼 ・「藤原ガイドマップ」作り 第6回打合せ

- 1 上記の他、7・8月を除き原則、毎月第1水曜日に月例幹事会開催
- 2 講座「コモンズ村ふじわら」他、全てのプログラムのインストラクター役を地元・藤原案内人クラブの皆さんにお願い、協力をいただいた
- 3 グリーンツーリズム ⇨ 誘致客 延べ 671人(殆んどリピーター)
利用民宿 9軒(延べ12回宿泊)

第6回 雪の藤原へ～かんじき観察会と除雪手伝い～

参加者募集

- 集合 JR上毛高原駅に10時20分
 <上越新幹線>東京 8:52 上野 8:58 - 大宮 9:18 - 高崎 9:52 - 上毛高原駅 10:14
 宿 民宿「樹林」(0278-75-2040)
 参加費 会員9,000円 一般1万円
 (宿泊費・2食、2日目昼食代、遊山館使用料、保険など)
 服装など 長袖、長ズボン、防寒具、手袋、オーバースボンなど、寒さ対策、雪対策をじゅうぶんに。水筒、雨具、も必携です。タオル、下着や靴下の替えは忘れずに。かんじき、スノーシューをお持ちの方はご持参下さい。ない方は塾の在庫をお貸しします。
 初日の昼食 各自持参してください
 緊急連絡先 清水英毅携帯(09035752283) 海老沢秀夫(09075528557)

【第1日目】 2月17日(土)

時刻	内容	場所	指導
10:20	上毛高原駅集合		
11:30	【除雪手伝い(状況確認)】 ・教員宿舎、遊山館	藤原地区	
12:00	昼食(弁当持参)	遊山館	
13:00	【除雪手伝い】 ・教員宿舎、遊山館	藤原地区	
16:00	【06年講座の報告会】 ・映像など使ってまとめ	民宿「樹林」	海老沢秀夫 川端英雄
18:00	夕食	民宿「樹林」	
19:30	【交流会】 ・春の野焼きの相談など ・星空観察	民宿「樹林」	みなかみ町 雲越万枝さん 阿部栄二さん

【第2日目】 2月18日(日)

時刻	内容	場所	指導
7:00	朝食	民宿「樹林」	
9:00	【フィールドスタディー】 ・かんじき、スノーシューで上ノ原の観察会	上の原	広川義直さん
12:00	昼食	幸新	
13:30	解散式	上の原	
15:32	たにがわ446(上毛高原駅)		

申込先・問い合わせ：森林塾青水事務局 = コミュニティデザイン(浅川潔) / 〒151-0051

東京都渋谷区千駄ヶ谷3-60-6-702 E-mail: info@commonf.net

【電話】03-3408-8670 【ファクス】03-5474-0847

申し込みは、交通手段・宿泊か日帰り・氏名・住所・連絡先・メール又はファックスを明記の上、ファックス、メール又はハガキで申し込みください。

申込み締切り日2月3日

06年の活動の振り返り。「今年の収穫と今後の課題」を整理し、地元・藤原の皆さんやみなかみ町当局にも報告した。編集後記に代えて、以下にその内容をご披露申し上げたい。今後の課題は即ち、07年以降の事業計画に反映されるべきテーマ。会員、会友各位より忌憚のないご意見、ご感想を是非お寄せいただきたい。

-- 06年の収穫と今後の課題(印・・・収穫、 印・・・課題) --

1. フィールド整備事業の進捗

野焼き、雑木伐採、カヤ刈り 風物詩化
散策路兼管理道作り一段落 総延長2キロ

2. フィールド(狭義)外への活動エリア拡大とフットパス作り

集落内の青木沢峠の再生

来年 ; 芦の田峠の再生

今後 ; フィールド内外のフットパスを接続・延長



武尊山周遊 100キロ
トレール構想ヘリンク

3. 地元・藤原中学校の生徒との交流

「昔の道を探すクラブ」の生徒が青木沢峠の再生活動に参加、地元古老各位と交流

来年 ; 芦の田峠の再生や野焼き、カヤ刈りにも参加を促したい

4. 地元住民と市民団体の地域間交流事業

国の茅葺き重要伝建ならびにカヤ場の視察(中之条)とカヤ刈り体験(上の原)を共有
それぞれが、カヤ場としてのススキ草原再生の社会的意義を実感、再認識した

5. 他団体・NPO法人とのタイアップ事業の推進

NPO法人森づくりフォーラムが参加者を募集し当塾・地元が企画、フィールド提供、案内

来年以降 ; (財)日本自然保護協会 = モニタリングサイト1,000の指定

NPO法人エコプラス = 環境教育プログラムの共催、など

6. 動員力の抜本的拡充

”文化財の森”を目指した活動の強化

ex. 雲越家住宅、諏訪神社、町内茅葺き民家、など

首都圏の団塊世代や大学生を動員、カヤ刈りやフットパス作りの担い手とする

7. 滞在型のプログラム開発と宿泊施設の改善・整備

オールシーズン・リピート型になってきたが、1泊2日止まり

3泊4日以上滞滞在型プログラム開発と宿泊施設整備が今後の課題

サステナビリティをキーワードとした環境マインドやロハス志向の高まりは世界の潮流。それにつけても、我国の先人たちが長い年月をかけて自然とつきあう中で培ってきた「入会慣行」こそ、サステナブル・ユースのモデルとして、日本が世界に誇るべき知恵ではなかったのか。そして、「美しい日本」の原点は日本各地の森や川や海にあった「入会地」にこそ求められるのではないか。

我々が目指す現代版「入会慣行」= 日本版 commons の形成こそ、美しい日本づくりの王道ではなからうか、など思考する年の瀬であった。

「傲慢」の世紀の果ての枯野かな

(青)